

〈海外留学体験記〉

ドイツ留学報告

京都府立医科大学眼科学教室 米田 一 仁

今回、私はドイツのエルランゲン大学を中心に、ケルン大学とベルリン大学に2ヶ月間の短期留学に行かせていただきました。

この度の留学は厚生省の若手研究者等海外派遣プログラムによる補助をいただき、京都府立医科大学眼科学教室の皆様のご協力のもとに実現できたものです。

まず、心から感謝いたします。

私が留学させていただいたエルランゲン大学はドイツのバイエルン地方にあります。一般的にイメージされる『ドイツ』を代表するような地域にあり、近隣の町には中世の雰囲気を感じられる環境にまで残している古都がいくつもあって環境的には非常に良い町でした。また、ケルン大学およびベルリン大学はそれぞれドイツの北西部と北東部に位置し、特にベルリンは随所に東西ドイツの文化の違いを見つけることができる町でした。これら二つの大学はそれぞれ2週間ずつの短期の滞在でしたが、それぞれの町の雰囲気は十分に堪能することができ、同じドイツといっても北部と南部であったり、旧東ドイツ領に近い地域とそうでない場所では言葉や町の雰囲気などが微妙に異なっており、貴重な経験ができました。

また、ドイツ国内はInter City Express (ICE)を中心とする鉄道網が張り巡らされており、南のエルランゲンから北部のケルンやベルリンへの移動にも非常に便利で快適でした。

ドイツでの生活で特に印象的であったことは、ドイツでの料理が非常に美味しいこと、ドイツ人が非常に親切であること、ドイツ人は非常に清潔好きであることです。

まず、食事ですが、これはイメージされる通りソーセージ&ビール&ポテトなのですが、これがそれぞれ数多くの調理方法をとられており、

非常に美味しくバリエーションも豊富で2ヶ月と短期間ではありましたが、毎日食べていても全く飽きることなく結局帰国するまで、日本食や中華料理などが恋しくなることはありませんでした。また、ドイツ人の親切さですが、これぞhospitalityと思わせるようなシーンに何度も遭遇し、困っていると言葉が通じる通じないではなく親切に接してくれる人が多くいました。特に、どの大学に行っても誰かが親切に大学構内を案内してくれたり、毎晩のように食事に誘ってくれたり、退屈するどころではなく非常に楽しく滞在期間中過ごすことができました。また、最後に最も驚いたことはドイツでは家庭やホテルだけでなく大学や駅などの公共の場も非常に清潔であることです。特にこれを象徴していると思われたのは、公衆トイレが非常に清潔に使われており、この点においては日本以上に清潔であったと思います。

さて、留学に際しての具体的な研究内容ですが、眼科領域の中でも特に網膜硝子体疾患の外科的治療を中心に普段から臨床及び研究に取り組んでおり、今回の留学でも手術を中心とした臨床研究を主に若干の基礎的研究も含めて行って参りました。

具体的には臨床的側面については、手術方法の違いによる各疾患の治療成績の検討、手術中に使用する薬剤の検討、新規薬剤の術中使用する検討を行ってまいりました。また、本邦においては症例数に限りがあり、検討が難しい眼科悪性腫瘍の各種治療方法の検討をを集中的に行ってきました。

基礎的な側面では、眼病理組織の検討及び、その他眼病に必要環境整備についての情報収集を行いました。

具体的な成果としては網膜剥離の手術方法に

よる術後成績の違いを検討する事ができたことや各種生体染色剤を用いた chromovitrectomy の際に用いる薬剤の安全な使用方法や適性濃度についての知見を得ることができ、今後の臨床研究に有意義な知見を得ることができました。

また、術後眼内タンポナーデ物質として、heavy silicon の有効性及びその使用上の注意すべき点などの検討も行いました。眼内悪性腫瘍、特に悪性黒色腫の各種治療方法、具体的には眼球摘出、部分切除+Luthenium 放射線照射、重粒子線療法に関する知見を得ることができ、今後の日本での臨床研究に生かすことができる重要な情報を得ることができました。

さらに現在日本でも知見が行われている眼内炎症性疾患に対する徐放性ステロイド剤 (Ozurdex) についての臨床応用およびその結果を検討してきました。

また、基礎的な側面としては具体的な基礎実験を行うことはできませんでしたが、眼病理組織の特殊性を考慮した組織学的検討に必要な研究機器及び環境整備に必要な知見を得る事ができました。

以上のような成果を得ることができたことにより、今後当院の眼科において、特に網膜硝子体疾患に対する臨床研究及び基礎研究を推進する事が可能となったと考えられます。

今回このような貴重な経験をさせていただいた京都府立医大眼科学教室の木下教授および留学期間中の臨床の穴をフォローしていただいた眼科学教室の医局員の諸先生方には心より感謝いたしております。ありがとうございます。

今回の留学で得てきた知見を今後の臨床および基礎研究に十分に活かしていく所存です。